

## 5. 大学院・看護学研究科

---

### 5.1 理念・目標

#### 5.1.1 博士前期課程（修士）

##### 5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

##### 5.1.1.2 教育目標

###### 1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

###### 2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

###### 3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

###### 4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

### 5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

### 5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

### 5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

## 5.1.2 博士後期課程（博士）

### 5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

### 5.1.2.2 教育目標

#### 1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

#### 2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

#### 3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

### 5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

#### 5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

#### 5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

## 5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

### 1. 入学の状況

#### 1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	30
博士後期課程	3	9

#### 2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験 (学内選抜)	令和 3年 7月 3日 (土)
博士前期課程入学試験	令和 3年 9月25日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	令和 4年 1月29日 (土)
博士後期課程入学試験	令和 3年 9月25日 (土)
博士後期課程入学試験 (第2次募集)	令和 4年 1月29日 (土)

#### 3) 受験状況等

課 程	単位 (人、倍)					
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	3	3	3	1.0	3(3)
博士前期課程 (2次)	若干名	1	1	1	1.0	1(1)
博士前期課程助産	5	13	10	5	2.0	5(5)
博士後期課程	3	1	1	1	1.0	1(1)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す  
博士前期課程には学内選抜を含む

### 2. 在学の状況 (令和4年3月1日現在)

課 程	単位 (人)		
	1年次	2年次	計
博士前期課程	10(7)	13(12)	23(19)

  

課 程	1年次	2年次	3年次	計
	博士後期課程	4(4)	3(2)	10(10)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（令和4年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数
博士前期課程第17期生	9(8)
博士後期課程第14期生	1(1)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（令和4年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第17期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	5	2	7(6)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	2	0	2(2)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
合 計	7	2	9(8)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他	0	0	0(0)
合 計	0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第14期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	0	0	0(0)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	1	0	1(1)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	1	0	1(1)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

## 5.3 大学院教務学生委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：今井秀樹教授、亀田教授、紺家教授、中道准教授

事務局：河端教務学生課長、林専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

コロナ禍の中で研究遂行や実習等の遂行に困難が生じている院生が出現して、授業の進行や研究データの収集に遅れや課題が生じている。

また、大学院生の定員割れが生じており、大学院進学に向けて広く、PRを図る。さらに、博士後期課程の院生に修了の遅延がみられ、適切な指導が行き届くよう支援を行う。

<今年度の目標・年度計画>

1. 本学の新型コロナウイルス感染対策の方針を見据え、安全・安心な学修環境を確保する。
2. 大学院生との懇談会やアンケートを実施して院生の声を聞き、修学支援ならびに学修環境の改善を図り、所定の年月で大学院を修了できるよう指導を充実させる。
3. 教員の世代交代が始まり、大学院生の確保のために研究コースや助産看護学分野の学内特別選抜等の制度の周知を図り、学部生の大学院進学を複数名確保する。

<今年度の活動実績・評価>

1. 委員会の活動実績について

- 1) 年度初めに新入ならびに在學生へのガイダンスを実施した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い大学に来学できない院生には後日、ガイダンス資料を送付、個別支援を実施した。
- 2) 令和3年度も4月に院生のオンライン環境を確認し、遠隔学習システムZoomを活用した授業に切りかえられるよう支援（Moodle研修会）を行った。4月の中間報告会はオンラインで実施した。
- 3) 助産看護学やCNS実習に行く大学院生のために感染対策用の個人防護具を配置できるよう、事前調査を実施し、予算獲得を図った。（大学からの特別予算措置、研究科長預り金活用）
- 4) 助産看護学実習において遠隔指導ができるよう、Wi-Fi環境を確保するため10月～1月の期間、予算措置（研究科長配分の預り金）を図った。
- 5) 在宅で療養しているコロナウイルス感染症患者への相談やホテル療養患者のサポートのために石川県並びに石川県看護協会から支援者の派遣要請があり、院生の派遣を行った。その体験について、研究科長が院生から情報収集を行った。
- 6) 院生との懇談会（今井秀樹教授、中道准教授担当）を7月14日博士後期課程中間報告会後に実施した。その内容について研究科委員会で報告し、後期の授業・研究活動に反映した。
- 7) 2月の修論・博論発表会後にアンケート調査を行い、大学院の満足度、要望等について無記名調査し、研究科委員会で報告を行った。概ね満足しているとの回答であった。
- 8) コロナ禍で大学院の研究計画を変更せざるを得ない院生に対して、倫理審査が早急になされるよう倫理委員会に特別配慮を依頼した。

## 2. 修士論文・博士論文に関する検討・審議について

### 1) 中間評価委員、予備審査・本審査委員の案の検討・審議依頼

令和3年度、博士前期課程の15名の院生の修士論文中間評価委員と10名の院生の論文審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認を得た。

博士後期課程の3名の院生の博士論文中間評価委員（案）、1名の院生の予備審査委員（案）、本審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認を得た。

### 2) 中間報告会（前期・後期）の運営

4月14日に修士論文中間報告会（15名発表、参加者約70名）、7月14日に博士後期課程の中間報告会（3名発表、参加者75名）をいずれもオンラインで実施した。

### 3) 修士論文・博士論文発表会の運営

2月21日（月）に修士論文発表会（10名発表、参加者100名）をオンラインで実施し、研究科委員会にて合否判定を行った。引き続き、博士後期課程の院生1名が博士論文を発表した（参加者90名）。研究科委員会にて審議の結果、学位授与が承認された。修了までの在籍期間は、前期課程は2～3年、後期課程は5年であった。

## 3. 大学院生の学修環境の改善について

1) 感染拡大に伴い院生室が密になる可能性があり、教育研究棟にWi-Fi設備が整ったサテライト院生室を確保した。令和3年度も院生の多くが自宅等からオンラインで授業を受け、実際の稼働はほとんど見られなかった。サテライト院生室の確保は継続することとした。

2) 修士論文作成時期（冬季）に院生室が冷えるため、例年通り暖房器具を貸与した。（各院生の持ち込みもあり、また、使用しない期間の保管は4F海側倉庫）

## 4. 大学院教育懇談会の開催について

大学院の受験生確保および実習場所拡大、修了生の動向把握・支援を目的に実施している「大学院教育懇談会（旧陸3県看護部長懇談会）」の開催は、今年度は7月13日（火）15:00～オンライン（Zoom）で実施した。北陸3県の52施設に開催案内を送付し17施設から参加（富山4施設、石川10施設、福井3施設）が得られた。本学の教職員は23名出席した。大学院進学後の自己の変化について公立能登総合病院主任助産師山本智世氏（女性看護学分野修了生）にゲストスピーカーとしてご発表をいただいた。

## 5. 学部生の大学院進学に関する支援について

1) 2月に学部生向けの大学院説明会を開催した。助産看護学のみならず、健康科学領域や実践看護学領域の紹介も行った。助産看護学分野の進学相談があった。

2) 大学院の修士論文・博士論文の発表会に学部生の参加も促し、ポスターの掲示・配布を実施したところ、大学院進学を考えている者も含めて10名余の参加を得た。

## <次年度以降に向けた課題・発展>

引き続き新型コロナウイルス感染症対策の充実を図り、研究活動遂行上の課題に必要な支援策を講ずる。また、教員の研究について積極的にPRを図るためにホームページや教育懇談会の開催、オープンキャンパスも活用した進学相談会を実施し、院生の定員確保に努める。

## 5.4 令和3年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	修士論文題目	指導教授
看護デザイン	立川 啓太	森林音聴取と森林映像視聴が前頭前野および自律神経活動に与える影響	中田 弘子
看護管理学	燕 真理子	教育担当者がスタッフ看護師を新人看護師教育に巻き込むためにとる行動	丸岡 直子
女性看護学	小村 未来	母子保健推進員が産後早期の母親に子育て支援を行う際の難しさと工夫	濱 耕子
老年看護学	辻 めぐみ	誤嚥性肺炎を経験した在宅高齢者の嚥下の理解と摂食状況	川島 和代
老年看護学	吉崎 彩	老人看護専門看護師が躊躇しつつも非がん疾患高齢者・家族と実践したアドバンス・ケア・プランニングー躊躇しつつもACPが行えた理由からー	川島 和代
老年看護学	小林真依子	代替栄養療法として経鼻経管栄養を実施している高齢者の家族の心理的变化ー経鼻経管栄養導入から現在までと今後の希望ー	川島 和代
助産看護学	林 未紗	乳児をもつ母親の育児に対する自己効力感と関連要因	亀田 幸枝
助産看護学	野川真咲貴	妊娠前女性の出産に対する不安要因の検討ー痛みへの不安と陣痛に対する価値観に着目してー	亀田 幸枝
助産看護学	寺田 真理	勤務助産師の乳房ケアに対する困難さとその対処経験を通して身につけた自分なりの乳房ケア	米田 昌代

## 5.5 令和3年度 博士論文題目一覧

氏名	博士論文題目	指導教授
蘭 直美	低栄養の課題を抱える在宅要介護高齢者を対象とした多職種による食支援の効果	川島 和代